

# 第2回茨木市文化芸術推進市民会議 (結果レポート)

この市民会議は、文化振興ビジョンの推進に当たり、市民、文化芸術関係団体、大学、商工会議所、観光協会、文化振興財団から、市の文化振興に関する様々な意見やアイデアを得て、今後の文化施策の参考とするとともに、市民及び関係団体等の連携・交流を図ることを目的としています。

## 1 日時

平成27年11月26日(木) 午後1時30分～3時30分

## 2 場所

男女共生センター ローズWAM501.502号室

## 3 参加者・参加団体(20人)

公募市民、日本盆栽協会茨木支部、茨木三曲協会、茨木市音楽芸術協会、茨木市合唱連盟、茨木市郷土芸能保存会、茨木市茶華道連盟、茨木市詩吟連盟、茨木市民謡民舞同好連盟、茨木美術協会、茨木市文化財愛護会、茨木市写真研究会  
梅花女子大学、立命館大学、茨木商工会議所、  
(公財)茨木市文化振興財団、(一社)茨木市観光協会、  
茨木市(まち魅力発信課、社会教育振興課)

## 4 会議の進め方

ワークショップ形式(4グループ)

## 5 進行役(ファシリテーター)

市民文化部文化振興課長代理 庄田

市民文化部文化振興課職員 永原

## 6 内容

# 開会

## ワークショップの説明

まず、第1回文化芸術推進市民会議のふりかえりを行いました。そして、第1回と同様に4つの班に分かれてワークショップを行いました。1回目とは別の方とコミュニケーションが取れるよう、班のメンバーをシャッフルしました。今回初めて参加した方もいるため、ワークショップの説明をしました。



## グループ内での自己紹介

第1回では「わたしと文化」というキーワードで自己紹介を行いました。今回は「私は〇〇です」と予め印刷された「1分間自己紹介」シートを使い、お互いの紹介をしました。各メンバーが、長所や短所、趣味や活動内容などを話すにつれ、お互いの理解が深まりました。



# テーマ

第1回は「文化を身近なものにするためには？」というテーマで話し合いました。そこで出た意見を基に、今回のテーマのカードを用意しました。各班のリーダーにカードの入った封筒を選んでもらいました。

その結果、1班は「情報」、2班は「協働」、3班は「フリーワード」、4班は「参加」となりました。

3班は「フリーワード」のため、テーマを「茨木のイメージ」と決定され、4つの班がそれぞれに話し合いました。

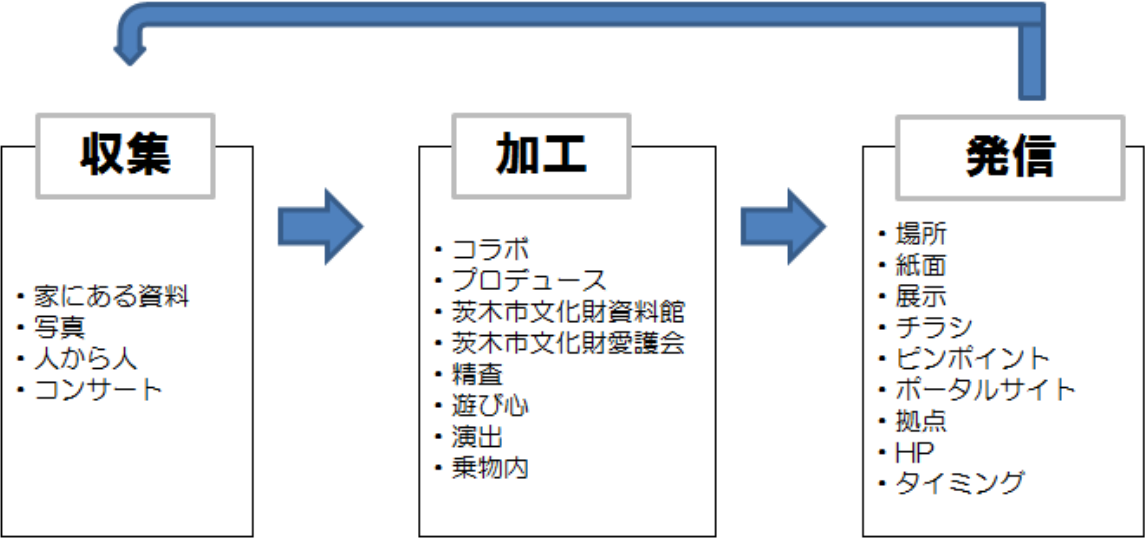
以下に各班の結果を掲載します。



# 1班 "情報"

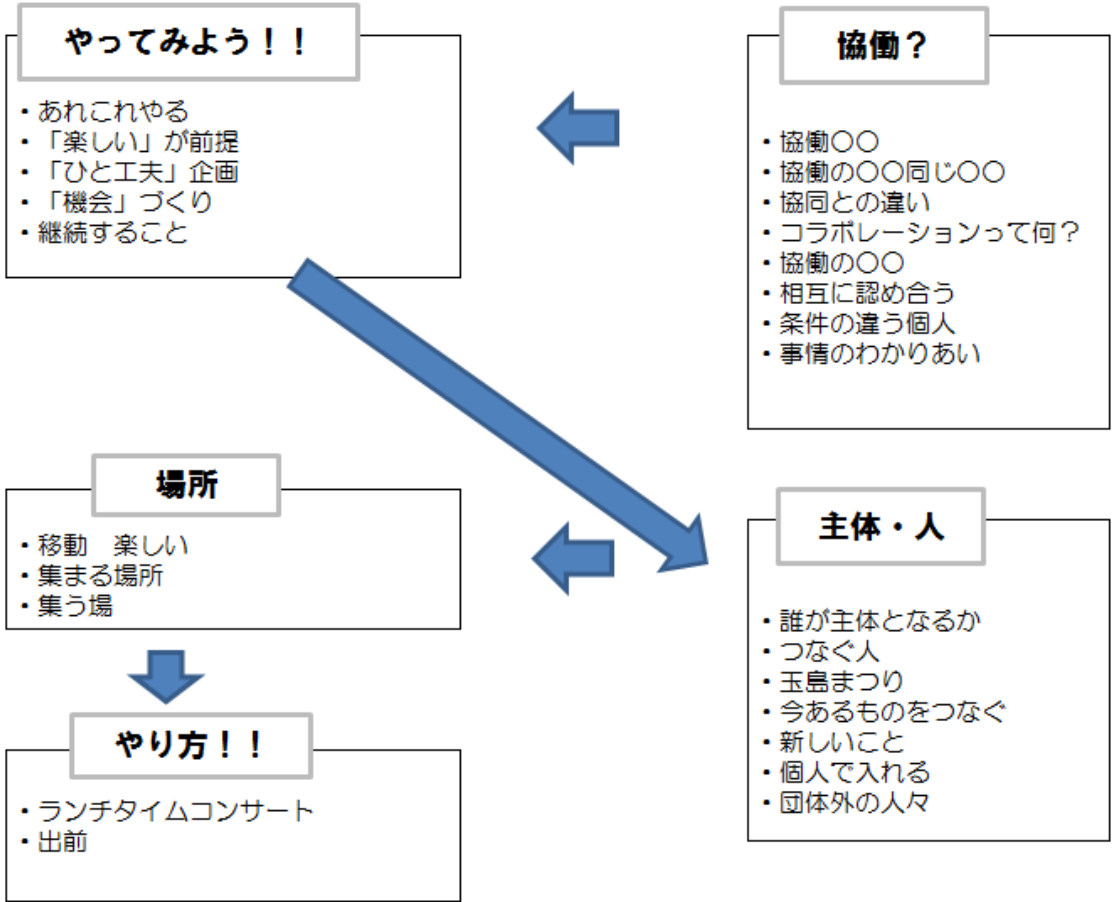
情報を集めて加工し、発信する3つの工程にまとめた。情報を集めたうえで正しい情報であるか精査し、発信する。発信内容や発信方法を決める。

最終的には個人や一団体の範囲から広がり、共有されることが必要。情報のサイクルがうまく回って様々なところで共有され、演出に活かされたら、今後、“楽しい”が見つかるのではないか。



# 2班 "協働"

協働とは一緒に何かをやるということ。多様化によりかつてのように共通基盤でのコミュニティ活動が希薄になった今、どう協働すればよいか。お互いの状況を解りあう場が必要。この場のようにいろいろな人の顔や状況が見える場がなければ協働は生まれない。各自が自発的に取り組むことが必要である。

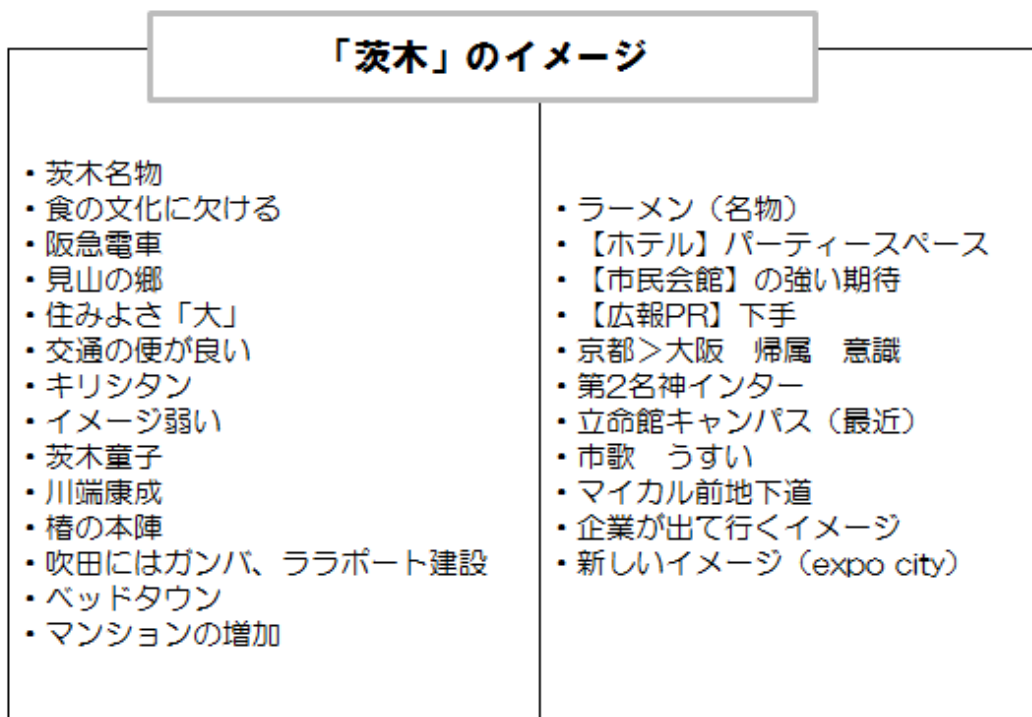


# 3班

## "茨木のイメージ"

茨木のイメージは「パツ」と思い浮かばないのが現状である。考えるという  
いろいろあるのだが、インパクトの強いものがない。うまくPRする必要がある。

茨木はベッドタウンであり、交通の便が良いがそれ故に市外でお金を使って  
しまう。



# 4班 "参加"

課題として少子高齢化による参加者の減少が進み、なかなか会員が集まらないのが課題である。参加してもらえば楽しさが分かってもらえる。楽しさに直接ふれあえる場所を作っていかなければいけない。興味を持ってもらうには、情報を発信し、知ってもらい参加につなげることが必要。専門的でなく、だれでもできるようにハードルを下げる必要がある。

## 課題

- 参加を増やす方法は？
- 参加者が減っていく。(高齢化・少子化)
- 盆栽も手がかかることで会員が集まらないので困っています。展示会には来てくださいね。
- 1年間ずっと水やりの世話でなかなか会員が入会してくださらないので・・・

面白くなるまで時間がかかる



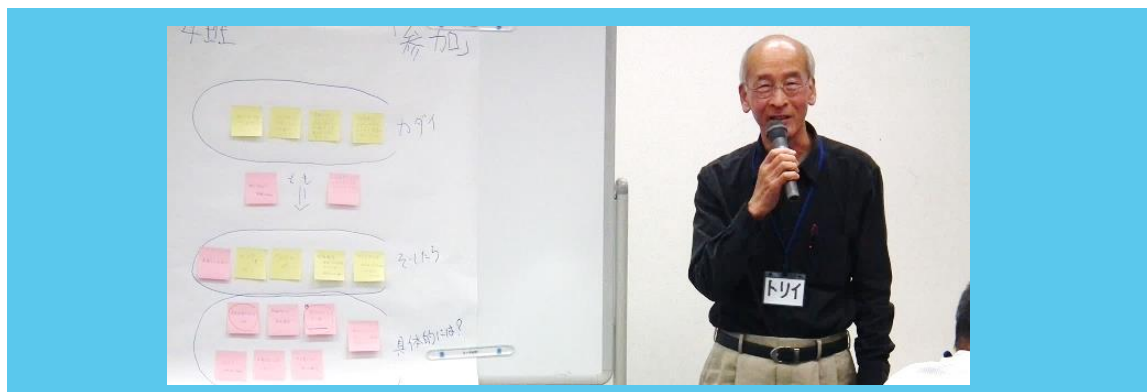
でも  
でも植木はいつも自分の思うようにこたえてくれますのでうれしいです。

## そうしたら

- 直接のふれあい
- 目的を作る
- 興味をもつこと
- 情報発信：活動していることを広く知らせる  
興味のある人に
- 門戸を広げる：だれでもWelcome  
ハードルを下げる(入門編など)

## 具体的には？

- 市民活動センターの活用
- 夏休みなどの親子教室
- 講習会を開催する(きっかけ)
- 市民レベルで考えて誰でも参加してもらう
- ロコミ(せまいが確実)
- 広報誌 HP(広く)
- 作る楽しさを教える教育



## ふりかえり

ワークショップの最後に、今回の市民会議についての振り返りを行いました。18人の方から回答があり、14人が「よかった」4人が「まあまあよかった」という感想をいただきました。

主な意見は以下のとおりです。

- 色々な団体の方の意見・考えが聞けて大変勉強になった。
- 同じテーブルで、違う所属・立場の方々が交わることができ、良かった。
- 春秋2回は顔を合わせたい。
- 様々な活動の団体について知る機会となった。
- 「茨木のイメージ」というテーマが良かったと思う
- 日頃思っていたことが整理された発表となり、楽しく色々なことに気付く機会となりました。
- テーマが大き過ぎたので、今後は少ししぼった内容をテーマにしてみてもどうでしょうか。
- おおぜいの方が「茨木のイメージアップ」を希望している。
- 文化活動の実践者が必ずしも鑑賞者になっていないことが残念に思う。
- フリーワードの茨木のイメージは？ご意見もっともと聞いておりました。
- 郷土・茨木愛は十分にある。イメージアップをどう図るかが共通の課題である。
- 是非続けて行ってほしい。
- 文化芸術についてもっと勉強してみたい。
- 市民の各層から、幅広く意見を聞く事・・・ひとつの参考になりますが、大学の先生等による専門家の意見の集約も、ぜひ、して下さい。
- 市民会館、期待しています！良いものを作って下さい！
- 文化政策の推進セクション充実が図られていると感じます。
- 市民に密接した内容のコンサートや舞台。



## さいごに

第1回（7月31日）同様、交流も主な目的としながら、今回は、第1回のワークショップで皆さんに発表いただいたキーワードの中から、「情報」、「協働」、「参加」、そして、自由に決めるフリーワードから「茨木のイメージ」を設定し、各班で話し合いました。

2回目ということもあり、和やかなムードのなか、話し合いも活発に進み、たくさんの意見がでました。

話し合ったテーマは、文化を振興する上で、それぞれが大切で重要なことがわかりました。しかしながら、ひとつができていれば良いということではなく、すべてが相互に関連しています。

今回のワークショップでは、「情報」、「協働」、「参加」、「茨木のイメージ」について、理解を深めて、それらの重要性について情報を共有できました。そして、なにより、皆さんの交流も達成できました。

今年度に立ち上げましたこの市民会議は、この2回を持ちまして今年度は終了となります。これまで、あまり顔を合わすことのない皆さんが一堂に介して、交流できたことは、たいへん有益であったと思います。

来年度以降もこの市民会議は継続していきたいと考えていますので、よろしくをお願いします。

ありがとうございました。